

国語科 【言語文化】

単元の指導と評価の計画表

単元名	物語の展開を把握する。 【羅生門】				
単元の目標	常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 【知識及び技能】（１）イ				
	我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めることができる。 【知識及び技能】（２）カ				
	文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】「Ｂ 読むこと」（１）ア				
	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 【学びに向かう人間性等】				
概ね満足できる姿	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
	本文で出てきた常用漢字の読み書きを、文章での使われ方に注目しながら理解している。 原典と読み比べ、違いを整理している。	登場人物の行動や心情、場面の展開を本文の表現を基に読み取り、要約文にまとめている。	話し合いをとおして気付いたことや他者の考えを基に、本文の内容について自己の考えを深めようとしている。		
指導と評価の計画（全７時間）	次	学習活動			知 思 態
	1	○『羅生門』の文学史的背景を理解する。 『国語便覧』を用いて作者や作品について知る。			
	2	○登場人物の置かれた状況や、行動及び心情の変化を読み取る。 ○本文で出てきた常用漢字を小テストで確認する。 【小テスト】			●
	3	○本文の内容を三行で要約する。 （ 誰 ）が、（ どのような原因 ）によって（ どう変化する？ ）物語。という形で書く。 ○グループ内で発表し、自分の文章との比較を通じて自己の学習の改善を図る。 【ワークシートの記述】			● ●
	4	○原典と読み比べ、違いをまとめる。 【ワークシートの記述】			●
	後日	定期テスト 【1次の内容を含むペーパーテスト】			● ●

国語科 【言語文化】

単元の指導と評価の計画表

単元名	古典作品に描かれた多様な人間関係を現代につなげて考えよう。 【説話 宇治拾遺物語 児のそら寝】						
単元の目標	古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【知識及び技能】（２）ウ						
	作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈できる。 【思考力、判断力、表現力等】「B 読むこと」（１）イ						
	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 【学びに向かう力、人間性等】						
概ね満足できる姿	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	歴史的仮名遣いや古今異義語、品詞について、文語のきまりを理解している。		読むことにおいて、古典の文章に慣れるとともに現代に通じるおもしろさや人間描写の巧みさを理解することができる。		積極的に説話を読み味わい、互いに話のおもしろさを伝え合おうとしている。		
指導と評価の計画（全5時間）	次	学習活動			知	思	態
	1	○教科書に採録されている古文「児のそら寝」を、歴史的仮名遣いに注意して音読できるようになる。 ○古典文法（用言、助動詞、古今異義語、係助詞）を理解する。			●		
	2	○本文に即して、誰がいつどこで何をしたのかを理解する。 ○登場人物の心情を理解する。 本文最後の「僧たち笑ふことかぎりなし。」から、僧たちと児の関係を考える。 「僧たちの笑い」はどのような笑いか、根拠を示して考える。 【ワークシートの記述】				●	
	3	○古典作品に描かれた登場人物の人間関係について話し合う。 ○僧たちと児の関係を理解する。 ○現代にも通じる登場人物たちの心情を理解する。 【ワークシートの記述】					●
	後日	定期テスト 【１・２次の内容を含むペーパーテスト】			●	●	

国語科年間指導計画【現代の国語】

■単位数

2 単位

■使用教科書

■目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

■内容

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関すること

ア 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解すること。

イ 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うこと。

ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

エ 実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

オ 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解すること。

カ 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うこと。

(2) 情報の扱い方に関すること

ア 主張と論拠など情報と情報との関係について理解すること。

イ 個別の情報と一般化された情報との関係について理解すること。

ウ 推論の仕方を理解し使うこと。

エ 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使うこと。

オ 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うこと。

(3) 我が国の言語文化に関すること

ア 実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めること。

〔思考力、判断力、表現力等〕

A 話すこと・聞くこと

ア 目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討すること。

イ 自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫すること。

ウ 話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫すること。

エ 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりすること。

オ 論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫すること。

B 書くこと

ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。

イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。

ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。

エ 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。

C 読むこと

ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握すること。

イ 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。

■評価の観点とその趣旨

(1) 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
(2) 思考・判断・表現	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
(3) 主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

■指導計画

月	単元名	知識及び技能						思考力、判断力、表現力等									言語活動					教材	評価の観点及び評価方法	配 当 予 定 時 数					
		(1)						(2)			(3)	話すこと・聞くこと			書くこと			読むこと			言語活動								
		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ア	イ	ウ				エ	他			
4	情報を正確に聞く					●									●									○	視聴覚教材 (ラジオニュースなど)	知：聞き取りメモ 思：振返りシート 態：振り返りシート	2		
	対話の仕方を学ぶ	●	●													●								○	「対話のレッスン」 「私の好きなもの」	知：ワークシート 思：プレゼンテーション 態：振返りシート	2		
5	伝わるように話す		●				●							●										○	「伝わるように話そう」 「著名人のスピーチ原稿」	知：スピーチ原稿 思：プレゼンテーション 態：振返りシート	4		
	説明のしかたをとらえる					●					●								●					○	「ナンバーワンか、オンリーワンか」	知：ワークシート 思：ワークシート、定期テスト 態：振返りシート	5		
6	正しい表記を学ぶ			●											●									○	「正しく書こう」 「履修ガイドブック」 「学校案内パンフレット」	知：ワークシート 思：-ワークシート、定期テスト 態：-振返りシート	3		
	接続詞を使いこなす					●									●									○	「文を整え、文をつなぐ」 「履修ガイドブック」 「学校案内パンフレット」	知：ワークシート 思：ワークシート、定期テスト 態：振返りシート	3		
7	分かりやすく説明する		●			●												●						○	「料理レシピを書こう」 「履修ガイドブック」 「学校案内パンフレット」	知：ワークシート 思：ワークシート 態：振返りシート	6		
	暑中見舞いを書く		●		●											●								○	日本郵便「手紙の書き方」	知：ワークシート 思：暑中見舞い 態：振返りシート	2		
9	手紙を書く		●		●											●								○	日本郵便「手紙の書き方」	知：ワークシート 思：手紙文 態：振返りシート	2		
10	論理の展開を読み取る			●		●													●					○	「水の東西」	知：ワークシート 思：ワークシート、定期テスト 態：振返りシート	5		
	テーマを決めて話し合う						●						●											○	「テーマを決めて話し合おう」	知：ワークシート 思：プレゼンテーション 態：振返りシート	6		
11	説得力のある意見文を書く					●					●				●									○	「意見文の基礎を学ぼう」	知：ワークシート 思：意見文 態：振返りシート	6		
12	討論会をする							●		●		●												○	「ミニ討論会をしよう」	知：ワークシート 思：討論 態：振返りシート	6		
1	情報を吟味して読む			●						●									●					○	「どこもかしこもプラスチック！」	知：ワークシート 思：ワークシート、定期テスト 態：振返りシート	6		
	企画書を書く							●		●					●									○	「魅力的な企画書を書こう」 「購買で扱ってほしい商品」	知：ワークシート 思：企画書 態：振返りシート	8		
2	聴衆の心を動かすプレゼンテーションをする					●					●													○	「プレゼンテーションをしよう」 「購買で扱ってほしい商品」	知：ワークシート 思：プレゼンテーション 態：振返りシート	6		
3																													

1 5 3 2 6 2 1 1 1 2 2 1 1 1 1 1 2 1 2 3 1 2 1

□ 「話すこと・聞くこと」に関する指導の予定単位時間数

……

26

時間（20～30単位時間程度）

□ 「書くこと」に関する指導の予定単位時間数

……

30

時間（30～40単位時間程度）

□ 「読むこと」に関する指導の予定単位時間数

……

16

時間（10～20単位時間程度）

国語科年間指導計画【言語文化】

■単位数

2 単位

■使用教科書

■目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

■内容

[知識及び技能]

(1) 言葉の特徴や使い方に関すること

ア 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解すること。

イ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うこと。

ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

エ 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解すること。

オ 本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解すること。

(2) 我が国の言語文化に関すること

ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。

イ 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。

ウ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。

エ 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解すること。

オ 言文一致体や和漢混交文など歴史的な文体の変化について理解を深めること。

カ 我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めること。

[思考力、判断力、表現力等]

A 書くこと

ア 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味いを吟味して、表現したいことを明確にすること。

イ 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。

B 読むこと

ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えること。

イ 作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈すること。

ウ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。

エ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。

オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつこと。

■評価の観点とその趣旨

(1) 知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。
(2) 思考・判断・表現	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。
(3) 主体的に学習に取り組む態度	言葉を通じて積極的に他者と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉のもつ価値への認識を深めようとしているとともに、言語感覚を磨き、言葉を効果的に使おうとしている。

■指導計画（2学期制）

月	単元名	知識及び技能										思考力、判断力、表現力等					言語活動						教材	評価の観点及び評価方法	配当 予定 時数		
		(1)					(2)					書くこと		読むこと			古典										
		ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	ア	イ	ア	イ		ウ	エ	オ	ア	イ				ウ	エ
4	話題について様々な角度から検討して、自分の意見を持ち、意見を述べる	●	●									●												○	「美しい」ということ	知：評価シート 思：作品 態：評価シート／作品	6
5	文語のきまりを理解し、古文に描かれた人物の心情を理解する							●	●					●					●					○	古文に親しむ／児のそら寝	知：テスト／評価シート 思：ワークシート 態：ワークシート	5
	古典作品を読むことを通して、自分のものの見方・感じ方・考え方を深める							●	●					●				●	○						徒然草（奥山に、猫またといふものありて）	知：テスト／評価シート 思：ワークシート 態：ワークシート	3
6	文章を読み、原典と比べることで、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにする		●		●												●				○				羅生門	知：テスト／評価シート 思：ワークシート 態：ワークシート	10
7	短歌・俳句を学び、韻文に特徴的な表現技法やその効果について理解する					●	●											●						○	短歌／俳句	知：評価シート 思：鑑賞文 態：ワークシート	4
9	故事成語を読み、自分のものの見方・感じ方・考え方を豊かにする							●	●									●		●				○	訓読の基本／故事成語	知：テスト／評価シート 思：ワークシート 態：ワークシート	6
10	目的に合った論語の言葉を選んで、構成や展開、語句などの表現を工夫する			●							●		●					●						○	論語	知：評価シート 思：評価シート 態：評価シート	4
	漢詩を読んで、表現されている言葉の選び方や使い方について評価する						●										●		●				○	漢詩（鑑賞文）	知：評価シート 思：鑑賞文 態：ワークシート	4	
11	作品に描かれた男女の恋愛観について理解し、自分の考えを持つ							●										●	●	○					伊勢物語	知：テスト／評価シート 思：ワークシート 態：ワークシート	10
12	方言を用いた文章を読んで、その展開や表現の特色について理解する									●						●				○					とんかつ	知：テスト／評価シート 思：ワークシート 態：ワークシート	6
1	中国の文化が日本に与えた影響を理解して、物語の展開や内容を的確に捉える						●							●				●					○	史話	知：テスト／評価シート 思：ワークシート 態：ワークシート	8	
2	和漢混交文の特徴を理解して、物語の表現の仕方や特色について評価する									●						●		●					○	平家物語	知：テスト／評価シート 思：ワークシート 態：ワークシート	6	
3																											

1 2 1 1 1 3 4 3 1 1 1 1 2 2 1 3 2

□「書くこと」に関する指導の予定単位時間数

.....

10

□「読むこと」の古典に関する指導の予定単位時間数

.....

42

□「読むこと」の近代以降の文章に関する指導の予定単位時

.....

20

時間（5～10単位時間程度）

時間（40～45単位時間程度）

時間（20単位時間程度）

世界史授業実践報告

単元名 結びつくユーラシアと諸地域	内容のまとめり C 諸地域の交流・再編 (2) 結びつくユーラシアと諸地域
----------------------	---

1 単元の目標

「結びつくユーラシアと諸地域」に関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，資料から情報を適切かつ効果的に読み取ったりまとめたりして，諸地域の交流・再編を読み解く観点である「交易の拡大」「都市の発達」「国家体制の変化」「宗教や科学」「技術及び文化。思想の伝播」について考察し，問いを表現する。その際，「結びつくユーラシアと諸地域」に関わる諸事象について，見通しをもって学習に取り組もうとする態度を養う。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播，ヨーロッパ封建社会とその展開，宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に，海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを経過的に理解している。	・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因，結果や影響，事象相互の関連，諸地域相互のつながりなどに着目し，主題を設定し，諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き，諸地域へのイスラームの拡大の要因，ヨーロッパの社会や文化の特色，中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し，表現している。	・「結びつくユーラシアと諸地域」に関わる事象について，見通しをもって学習に取り組み，学習課題を主体的に追求しようとしている。

3 指導と評価の計画

	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
小 単 元 1	インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化に関する学習内容を理解し，資料から情報を読み取る。	●			●アフリカ・アジアへのイスラームの伝播を経過的に理解し，資料から情報を適切に読み取っている。
	イスラーム文明の発展に関する学習内容を理解し，資料から情報を読み取る。	●			●イスラーム文明の発展の背景や影響を理解し，資料から情報を適切に読み取っている。
	イスラーム・ヨーロッパ・中国のつながり		●	●	●イスラーム文明における暦の発達について，背景や原因，結果や影響，事象相互の関

	課題1「なぜイスラームでは正確で高度な「暦」をつくることができたのか」			連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、イスラーム文明の発展と中国・ヨーロッパへの影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ●学習課題を主体的に追求するとともに、イスラーム世界の学習を振り返り、次の学習の見通しを立てている。
小 単 元 2	ローマ＝カトリック教会の成長に関する学習内容を理解し、資料から情報を読み取る。	●		●ローマ＝カトリック教会の成長の背景と教会の権威を理解し、資料から情報を適切に読み取っている。
	封建社会の成立に関する学習内容を理解し、資料から情報を読み取る。	●		●封建社会の成立と構造を理解し、資料から情報を適切に読み取っている。
	十字軍と商業の発達に関する学習内容を理解し、資料から情報を読み取る。	●		●十字軍の原因と経過、その影響と商業の発展の関係を理解し、資料から情報を適切に読み取っている。
	中世の都市に関する学習内容を理解し、資料から情報を読み取る。	●		●中世の都市の発展を理解し、資料から情報を適切に読み取っている。
	封建社会の衰退と教皇権の衰退に関する学習内容を理解し、資料から情報を読み取る。	●		●封建社会の衰退と教皇権の衰退の原因と背景を理解し、資料から情報を適切に読み取っている。
	イギリスとフランスに関する学習内容を理解し、資料から情報を読み取る。	●		●イギリスとフランスの王権の伸長と対立の原因・結果を理解し、資料から情報を適切に読み取っている。
	スペインとポルトガル・ドイツ・スイス・イタリアに関する学習内容を理解し、資料から情報を読み取る。	●		●スペインとポルトガル・ドイツ・スイス・イタリアの各国の変遷と関係を理解し、資料から情報を適切に読み取っている。
	教皇権と王権の関係性 課題2「教皇権と皇帝権（国王の権威）の盛衰を比較するとどのような関係がわかるか」		● ●	●教皇権と皇帝権（国王の権威）の盛衰に関するグラフから、背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、などに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、教皇権と皇帝権（国王の権威）の関係性について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ●学習課題を主体的に追求するとともに、西ヨーロッパ中世世界の学習を振り返り、次の学習の見通しを立てている。学習課題を主体的に追求しようとしている。

小 単 元 3	トルコ系民族の進出とイスラーム化に関する学習内容を理解し、資料から情報を読み取る。	●		●トルコ系民族の進出とイスラーム化の経過を理解し、資料から情報を適切に読み取っている。
	中国北方の諸勢力に関する学習内容を理解し、資料から情報を読み取る。	●		●中国北方の諸勢力の変遷と中国王朝との関わりを理解し、資料から情報を適切に読み取っている。
	宋の統治に関する学習内容を理解し、資料から情報を読み取る。	●		●宋の統治の政治的・制度的特徴を理解し、資料から情報を適切に読み取っている。
	宋代の社会と経済・文化に関する学習内容を理解し、資料から情報を読み取る。	●		●宋代の社会と経済・文化の特徴と背景を理解し、資料から情報を適切に読み取っている。
	唐代と宋代の比較 <u>課題3 「唐代と宋代の文化を比較し、どのような変化があったのか、その変化を生み出した原因や背景は何か」</u>		● ●	●唐代と宋代の文化に関する資料から、背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、文化の担い手などに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、唐代と宋代の特徴を、多面的・多角的に考察し、表現している。 ●学習課題を主体的に追求するとともに、宋代の学習を振り返り、次の学習の見通しを立てている。
小 単 元 4	モンゴル帝国の形成に関する学習内容を理解し、資料から情報を読み取る。	●		●モンゴル帝国の形成の経過と影響を理解し、資料から情報を適切に読み取っている。
	元の東アジア支配と滅亡に関する学習内容を理解し、資料から情報を読み取る。	●		●元の東アジア支配と滅亡の背景や原因を理解し、資料から情報を適切に読み取っている。
	モンゴル時代の東西交流に関する学習内容を理解し、資料から情報を読み取る。	●		●モンゴル時代の東西交流の背景や影響を理解し、資料から情報を適切に読み取っている。
	結びつくユーラシアの諸地域 <u>課題4 「モンゴル帝国の広域支配は世界の交流にどのような意味があっただろうか」</u>		● ●	●モンゴルのユーラシア大陸支配の資料から、背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、結びつくユーラシアの諸地域を、多面的・多角的に考察し、表現している。 ●学習課題を主体的に追求するとともに、結びつくユーラシアの諸地域の学習を振り返り、次の学習の見通しを立てている。

4 観点別学習状況評価の進め方

(1) 「思考・判断・表現」(小単元3 課題3)の事例)

・「指導と評価の計画」の小単元3 課題3 ●印は、「唐代」と「宋代」の文化を比較し、その差異や変化を捉えるとともに、変革の社会的・政治的・経済的背景や原因と文化的側面との因果関係について多面的・多角的に考察し、自らの考えを表現できているかについて評価する場面である。

例1:「おおむね満足できる」状況(B)と考えられる生徒の記述例

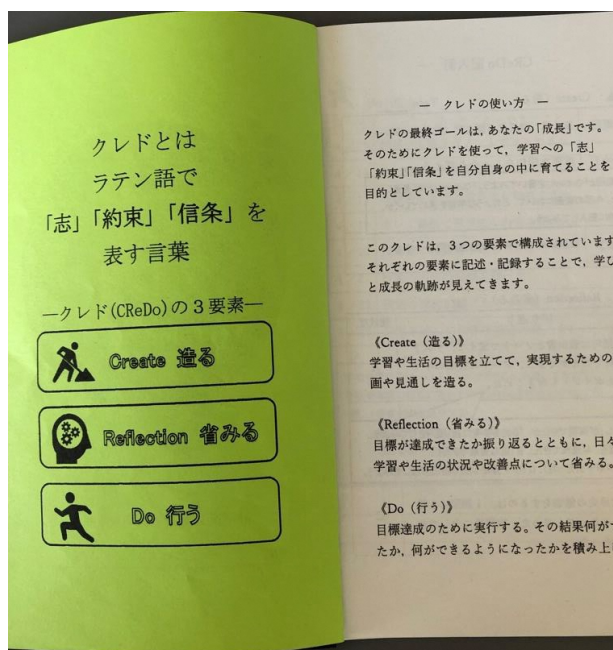
唐代では、貴族が官界に進出したが、宋代では、科挙により選ばれる士大夫が進出し、文化革新の流れを担った。宋の乱により、人口が減少し、唐と宋の間での社会的な区別が薄れたことが、文化の担手が貴族層から士大夫に変わった理由の要因。宋代は、商業が発達したことにより、商業が発達したことにより、文化が発展することへとつながった。宋代は、印刷技術が発達し、広く本や書籍が伝わるようになった。唐よりも速く、自ら主体的に学び、自分のためを思ひ、1人1人に勉強するというのが宋代の特徴的な考え方。自らを思い、勉強し、知識を身につけることが、人々のために役立つことにつながる。

上記の例1は、「唐代」と「宋代」の文化を比較し、唐代から宋代にいたる文化の担い手の変化に着目している記述例である。「唐代」における貴族的な文化から、「宋代」の士大夫中心の文化への変遷を、官吏任用制度や人口の変化、商業の発達、印刷技術の発展などの観点から具体的に説明しており、「多面的・多角的に考察し、表現」できている。よって、「おおむね満足できる」状況(B)と考えられる。

(2)「主体的に学習に取り組む態度」

・各小単元の●印は、課題学習に対して「主体的に追求する」観点と、「学習を振り返り、次の学習の見通しを立てる」という観点について評価する場面である

・「学習を振り返り、次の学習の見通しを立てる」観点については、筆者が作成した「学びのクレド」を活用する。「学びのクレド」は、自己調整学習における「予見段階」・「遂行段階」・「内省段階」のプロセス(シャンク・ジーマン 2009)を参考に、生徒の学習プロセスを可視化する目的で作成した。



例 2 : 「学びのクレド」生徒の記入例①



Create (造る)

Tern

学習範囲	大陸アジア世界、東アジア世界の展開
Outlook①	教科書に積極的にとく
Outlook②	YouTubeで本をみて予習
Outlook③	先生の言ったこと、書いたこと、石印のメモをする



Reflection (省みる)

	振り返り	達成度
①	教科書の中や、スマホ問題集に「こんな×コレ」。 問題を解いているうちに、「ニヤカたけ」「おかしなところだ」と思いたるまで調べる。スマホで調べたりもして、おかしな問題とわかるものがある。問題は、因果関係がないものや矛盾などテストで分かる形で問われ過ぎていた。	A
②	YouTubeで「世界史スポーツ実況」のような見出し、通史の如くに、時代の流れ度々を知ることからできた。この時代が二日三日はあることがわかる。ことごとく「今」のように、一足溜りの復習をやり、そして今日、テスト範囲の勉強ができた。世界史での、時代の流れがわかる知識によって、授業がスムーズになり、前後関係を掴みやすくなった。	A!
③	前日同様授業中に先生が話していたことはスマホの項目をノートで長にまとめておくことであった。またそれを活用しスマホやテキストの問題を解くことに役立てることができた。	A



Do (行う)

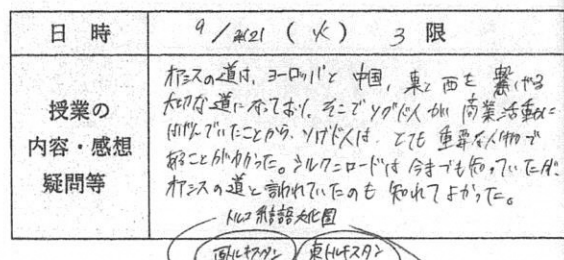
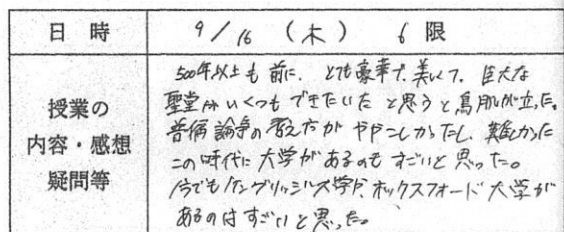
[illegible]

例3：「学びのクレド」生徒の記入例②



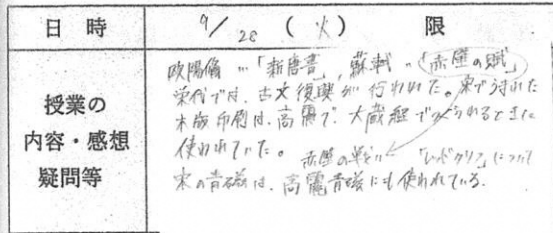
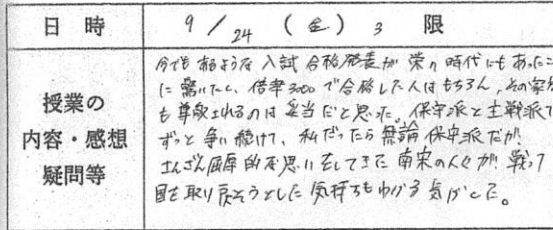
授業記録

日 時	9 / 15 (水) 5 限
授業の 内容・感想 疑問等	1474 = 神聖ローマ帝国だと思ってるが、ほんとかな。 皇帝よりも、諸侯(王)の方が権力があつた、と云つ てはとて驚いた。だから、それをどうにかするに、めに 金印執事か王太子に、結婚すれば、事態をさらに 悪化させることになり、弱体化してしまつた、と云 うのは、



授業記録

日 時	9/22 (水) 6 限
授業の 内容・感想 疑問等	唐は周辺地域と多くの関わりを持っていたため、唐滅亡の時には、その方、周辺地域の影響が大きかった。このころから、1世紀から16世紀にかけての朝鮮、中国の国々が知り変わり、国境がどのように変化していったか。資料集められた。高句麗と高麗が同じに存在していたことがわかった。



- ・生徒は各単元の最初に「Create（造る）」の部分に、学習範囲を記入して学習の見通しを立てる。どのように学習を進めていくか、具体的に記入する。前単元の振り返りを活かすとともに、改善や発展的な観点も踏まえて立てていく。
- ・単元の学習中には、「Do（行う）」の部分に、学習の見通しに対して学校や家庭で取り組んだ内容等を記入し積み上げていく。授業中の実践や工夫、課題の取り組みや休み時間・放課後・家庭における学習など幅広い機会を含む。
- ・毎回の授業後には、「授業記録」へと、授業の内容・感想・疑問等を記入する。
- ・単元の終了後には、「Reflection（省みる）」の部分に、単元の最初に立てた見通しが実現できたか記入する。「Do（行う）」の記述も参考にして、A（達成できた）、B（概ね達成できた）、C（やや不十分だった）、D（不十分だった）の4段階で自己評価する。

令和3年度1年生 物理基礎 リフレクションシート

1 運動の表し方 1-2 加速度

HRNO

NAME

月日	学 習 目 標	これ学んだ！（単語でも文章でも）	主体性	理解度

問1 「加速度」とは何か？聞いた人がわかるような説明をしよう.

問2 「加速度が0である」物体の運動状態について説明せよ.

問3 速度の向きと加速度の向きは必ずしも一致するか，一致しないか？根拠も含めて説明しよう。

問4 東西にのびる直線上を加速度運動する物体がある．東向きを正としたとき，「**加速度が負である運動**」をしている物体の運動状態について，東向きに運動している場合と西向きに運動している場合のそれぞれについて説明しよう．

問5 次のような問題が与えられた．

速さ $6.0[\text{m/s}]$ で右向きに進み始めた物体が，等加速度直線運動をして $2.0[\text{s}]$ 後に左向きに速さ $4.0[\text{m/s}]$ となった．このときの物体の加速度の大きさを求めよ．

この問題に対してナオさんは次のような解答をした。

$$\begin{aligned} \text{《解答》 等加速度直線運動の公式 } v &= v_0 + at \text{ より } 4.0 = 6.0 + a \times 2.0 \\ &\rightarrow a = \blacksquare 1.0 \end{aligned}$$

ゆえに, [m/s²]

しかし, この解答は誤りである。それについて指摘し, 正しい答えを出そう。

$\left[\frac{m}{s^2} \right]$

「加速度」全体の振り返り**主 体 性**

- A：内容について真剣に考えることはもちろん，クラスメートと積極的に意見交換をした。
- B：内容について真剣に考えた。
- C：あまり真剣に考えることができなかった。ボーっとしている時間が多かった。
- D：全くやる気がなかった。眠ってしまう時間が長かった。

理 解 度

- A：大変理解することができた。
- B：理解することができた。
- C：あまり理解することができなかった。
- D：全く理解することができなかった。

令和3年度1年生 物理基礎 リフレクションシート

1 運動の表し方 1-1 速度

HRNO

NAME

月日	学 習 目 標	これ学んだ！（単語でも文章でも）	主体性	理解度

問1 150[m] を 10[s] で進む物体A，450[m] を 20[s] で進む物体Bのように，時間も異なれば距離

も異なる2つの物体の「速い」「遅い」を比べるには一般的にどうすればいいの？

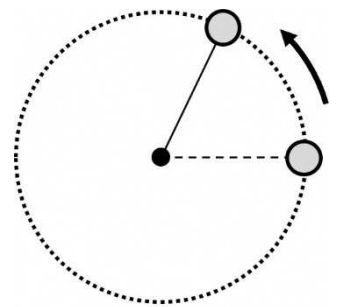
問2 あなたの 100[m] 走のタイムは？ 【 】分【 】秒

$$\left[\frac{km}{h} \right]$$

あなたの 100[m] 走の速さを[km/h] の単位で表してみよう。

問3 「速さ」と「速度」の違いを説明してみよう。

問4 右図のように，一定の速さで，ある点の周りを円軌道を描いて移動する運動を「等速円運動」という。等速円運動の「速度」は一定ではない。この理由を説明せよ。



等速円運動

問5 自分はその場で止まっているはずなのに、他者から見たら自分が動いているような運動の例をできるだけ挙げてみよう。

「速度」全体の振り返り

主 体 性

- A：内容について真剣に考えることはもちろん、クラスメートと積極的に意見交換をした。
B：内容について真剣に考えた。
C：あまり真剣に考えることができなかった。ボーっとしている時間が多かった。
D：全くやる気がなかった。眠ってしまう時間が長かった。

理 解 度

- A：大変理解することができた。 B：理解することができた。
C：あまり理解することができなかった。 D：全く理解することができなかった。

令和3年度1年生 物理基礎 リフレクションシート

2 運動の法則 2-1 & 2 力とそのはたらき&力のつりあい

HRNO

NAME

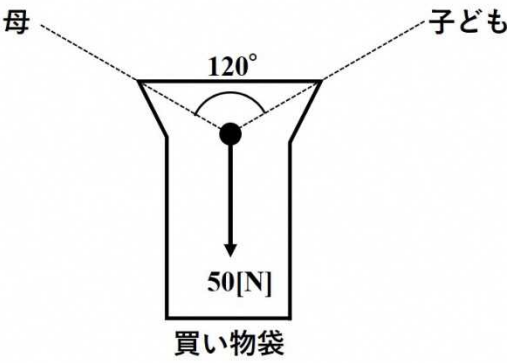
月日	学 習 目 標	これ学んだ！（単語でも文章でも）	主体性	理解度

問1 日常生活で使われる「重さ」と物理学における「重さ」は異なる。その相違点について、「質量」という語を必ず用いて説明してみよう。

問2 ある日、子どもと母で買い物に出かけ、大量の買い

物をし、買い物袋の重さが 50[N] となった。これを最初母

が1人で持って歩いていたが、子どもが「ママ、僕も持っ
てあげる」と言ってくれた。そして、母と子どもが袋の両
端を右図の点線の方法にそれぞれ引いた。このとき、それ



それが引く力は何[N] か求め、子どもの優しさが力学的にありがたいものだったのか判定せよ。

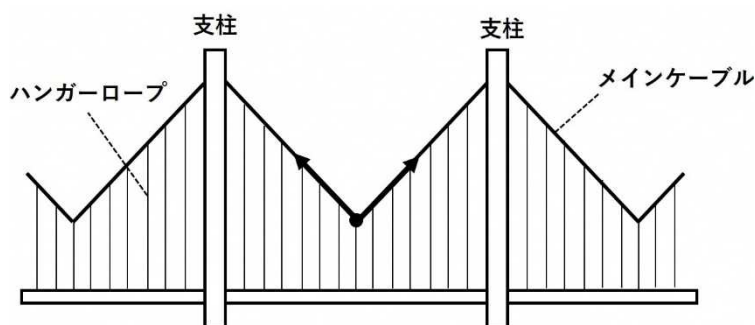
問3 兵庫県にある「明石海峡大橋」は全長約 4000[m] の世界最長のつり橋で、支柱は海面から約

300[m] の高さがある。このように長いつり橋の支柱は高い場合が多いのだが、それはなぜか？以下の

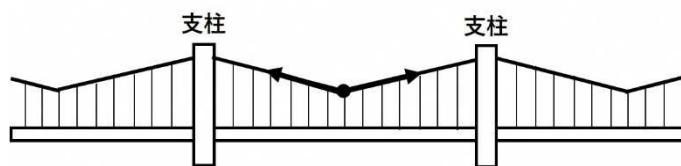
資料を手掛かりに答えてみよう。

【資料】

- ・つり橋は、支柱からつるされたメインケーブルでつなげたハンガーロープで橋を支える。
- ・メインケーブル自身の重みでケーブルは弧（模式図は弧でないが）をえがく。
- ・支柱が高いつり橋と低いつり橋の模式図を右に示した。



支柱が高いつり橋の模式図



支柱が低いつり橋の模式図



「力とそのはたらき&力のつりあい」全体の振り返り

主 体 性

- A：内容について真剣に考えることはもちろん，クラスメートと積極的に意見交換をした。
- B：内容について真剣に考えた。
- C：あまり真剣に考えることができなかった。ボーっとしている時間が多かった。
- D：全くやる気がなかった。眠ってしまう時間が長かった。

理 解 度

- A：大変理解することができた。
- B：理解することができた。
- C：あまり理解することができなかった。
- D：全く理解することができなかった。

1枚ポートフォリオ

HRNO氏名

【単元の導入】水を温める方法を思いつくだけ書こう！（1つ1点、最大5点）1つ1点、最大5点

- ・火で温める
- ・手(体温)で温める
- ・太陽の光に当てる

※おそらく熱エネルギーによる加熱方法しか出ない。もしかしたら光エネルギーは出るかも。
そもそも、温かい、冷たいを数値的に表すこの温度とは何者かと、疑問を持たせたい。

温める、つまり温度を上昇させるということですが、この温度とは何なのでしょう？

記入日	問い	温度とは何か？		理解度 (低) 1 2 3 4 (高)				
授業前			授業後					
・物体の温かさを表したもの。 ・水の温度を基準にして決めたもの。 ※粒子の運動には言及できないと思う。授業を通して、このマクロな視点を、ミクロな視点に誘導する。			・今使われている、<u>セルシウス温度</u>は水の融点と、沸点を基準に決められた温度であるが、これは本質的ではない。物体を構成する粒子に着目すると、温度とは、その粒子の運動の激しさを表す数値だと言える。粒子の運動が完全に静止する温度をゼロとした新しい、温度計が<u>絶対温度</u>である。					
質問・感想			教員	摂氏温度と絶対温度の違いを説明 A	粒子の運動に着目して説明 B	粒子の運動に言及していない C		

記入日	問い	熱はどのように伝わっていくか？					理解度						
							(低)	1	2	3	4	(高)	
授業前							授業後						
・ 温かい物から冷たい物に振動として伝わっていく。 ・ 熱が移動していく。 ・ だんだん広がって、伝わっていく。 ※熱伝導については説明済みだが、あいまいなイメージであることが予想される。具体性のない、抽象的な説明を授業を通して改善していく。							・ 熱の伝わり方には、熱伝導、対流、熱放射の3つがある (C)。熱伝導は、高温の物体と低温の物体が接触したときに起こり、粒子の振動を通して、直接熱が伝わっていく。対流は、液体や気体で、高温の部分が、膨張し上昇、空いた空間に低温の部分が流れ込むことで起こり、温度差による流体の流れに伴って熱が伝わっていく。熱放射は、熱を持つすべての物体で起こり、物体から出る電磁波を通して、熱が伝わっていく。						
質問・感想							教員	2つ以上で、その仕組みまで説明		熱の伝わり方を3つ説明		Bの基準に満たない	
								A		B		C	

記入日	問い	熱容量 16J/K, 20℃の容器に 70℃のお湯 20g を注ぎしばらくすると全体の温度は一定となった。このときの温度を求めよ。	理解度 (低) 1 2 3 4 (高)				
解き方・考え方							
熱量は保存されるので、お湯が失った熱量と、容器が得た熱量は等しくなる。							
一定となったときの温度を とすると、							
$Q_1 = 20 \times 4.2 \times \Delta T$							
お湯が失った熱量は							
$Q_2 = 16 \times (T - 20)$							
容器が得た熱量は							
この2つが等しいので、							
+α 実際の実験を行うと、計算結果と異なる結果となった。それはなぜか？							
実際の実験では、完全に断熱することができず、熱平衡を待つ間に、熱が外に逃げってしまうため、計算結果より、低い温度となる。							
質問・感想		教員	+αに解答できている A	熱量の保存を用い 答えを導けている B		答えが書いてある C	

記入日	問い 打ち水で涼しくなるのはなぜか？	理解度 (低) 1 2 3 4 (高)			
授業前			授業後		
・水によって地面が冷やされるから。 ・地面の熱を水が奪うから。 ※潜熱についての知識がないため、水と地面との熱のやり取りが書かれると予想される。撒いた水がその後			・まず、 撒いた水が地面の熱を奪い温度を下げる 。さらに、水が蒸発する際に、潜熱(蒸発熱)として、地面の熱を奪うことで、周囲の温度が低下し、涼しくなる。		

どうなるか思考させ、潜熱の説明に繋げたい。				
質問・感想	教員	顕熱、潜熱の両方に注目して説明	潜熱に注目して説明	潜熱について言及していない
		A	B	C

【単元のまとめ】水を温める方法を思いつくだけ！

・火(熱エネルギー)で温める ・太陽の光(光エネルギー)に当てる ・水をかき回す(運動エネルギー) ・濃硫酸を水にそそぐ(化学エネルギー) ・マグネシウムを水に入れる(化学エネルギー) ・電子レンジ(電磁波→光エネルギー)で加熱する			
評価	A 4種類以上のエネルギー	B 2種類以上のエネルギー	C 2つ以上書く

教科	理科	科目	科学と人間生活
----	----	----	---------

○教科の目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技術を身に付けるようにする。	観察・実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究する力を養う。	自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

○人間生活の中の科学(大項目)

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	光や熱の科学、物質の科学、生命の科学、宇宙や地球の科学と人間生活との関わりについて認識を深めているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	光や熱の科学、物質の科学、生命の科学、宇宙や地球の科学について、問題を見出し見通しを持って観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現している。	人間生活の中の科学に主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

○光や熱の科学 イ 熱の性質とその利用(中項目)

評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	熱に関する観察、実験などを行い、熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について、日常生活と関連付けて理解しているとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。	熱の科学について、問題を見出し見通しを持って観察、実験などを行い、熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現している。	熱の科学に主体的に関わり、見通しを持ったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

指導と評価の計画（全 12 時間）

時	ねらい	重点	記録	学習活動
1 2	目標：分子の運動に着目するとい う、物理学の見方を知る ■温度と熱運動 ・セルシウス温度の定義を説明 できる ・温度の違いが、熱運動の激し さの違いであることを理解して いる ・絶対温度の定義を説明できる	主 知 思 思 主 知	○ポ	○「温度とは何か？」ポートフォリオに記 述 ・セルシウス温度が水の状態変化を基準に したマクロな定義であることを確認する。 ・水を加熱したときの粒子の運動を想像さ せ、温度と熱運動の関係性を見い出させる。 ※状態変化を思考の材料にしても良い。 ・新しい温度計を作らせる。何を基準にす るか、目盛りの幅をどうするか考えさせたい。 (グループワークなどで学びの調整を促す) ○「温度とは何か？」に改めて解答
3	目標：身の回りの事象を材料に、考 察することができる ■熱容量と比熱 ・温度差のある物体が接触した ときの変化を説明できる ■熱の伝わり方 ・熱伝導、対流、熱放射を説明 できる	知 思 主	○	・熱いものと、冷たいものが接触したとき について考えさせる。 ・上記のまとめ後、この熱の伝わり方は、 熱伝導であることを伝え、熱の伝わり方に はほかにどのようなものがあるか考えさせ る。※「水を熱したとき」のようなヒント を必要に応じて与えていく。個人→集団と いうワークでも可
4	目標：温まりやすさの違いを定量的 に説明することができる ■熱容量と比熱 ・熱量の保存を説明できる	知		・エネルギーとして熱が物体間を移動する

	・熱容量、比熱について理解している	知 知	○小	こと、温度の異なる物体を接触させたときに熱平衡状態へ至ることを印象付ける。 ・物体のあたたまりやすさを表す指標として、熱容量・比熱を導入する。※比熱は物質ごとに固有の値を持つことを説明する。 ○熱容量と比熱の小テスト(簡単な問題)
5 6	■熱容量と比熱(演習) ・熱容量と比熱の式を用いて、問題を解くことができる	主 知 思	○ポ	○熱量保存の問題をヒントなしで取り組ませる。ポートフォリオに記述 ・問題演習(共通プリント) ※次回小テスト ○再度、熱量保存の問題を解かせる。
7 8	目標： ■熱の伝わり方 ・状態変化に必要な潜熱について理解している ・状態変化をとまなう問題を解くことができる	主 知 思	○ポ	○「打ち水で涼しくなるのはなぜか？」ポートフォリオに記述 ・水を例に出し、状態変化にエネルギーが必要であること、状態変化中は温度変化しないことを伝える。※化学室で実験可能 ・問題演習(共通プリント) ○「打ち水で涼しくなるのはなぜか？」に改めて解答
9	■仕事や電流と熱の発生 ・仕事とエネルギーについて理解している	主 知		・熱とはエネルギーであることを伝え、熱エネルギーの他にはどのようなエネルギーがあるか、考えさせる。※具体例でも良い ・生徒の出したエネルギーのうち、力学的エネルギーに該当するものを拾い、仕事について説明する。(中学の復習なので簡単

	電気エネルギーと熱量の関係について理解している	知		に) 生徒の出したエネルギーのうち、電気エネルギーに該当するものを拾い、ジュールの法則について説明する。(中学の復習なので簡単に)
10	■エネルギーの移り変わり - エネルギーが保存されることを理解している ■熱の仕事への変換 - 不可逆変化について具体例を挙げて説明できる - 熱効率について理解している	思 知 知 知		- エネルギーの種類を整理し、どのように変換されるか具体例を考えさせる。 - エネルギーの移り変わりを復習しながら、エネルギーの保存について説明する。 「暖かい水と冷たい水」「水と墨汁」など、元に戻らない変化を例に出し、不可逆変化の説明をする。 - 熱機関には放熱の過程があり、仕事の効率が重要になることを意識させる。 - 永久機関、エネルギーの変換効率について簡単に説明する。
11	■エネルギー資源の有効活用 - 省エネルギーの重要性について説明できる - 新たなエネルギー資源について理解している	思 知		- 化石燃料の可採年数に限りがあることを意識させる。(石油・天然ガス：約 50 年、石炭：約 130 年 経済産業省) - 省エネルギーの具体的取り組みを説明する。※調べ学習でも可 - 化石燃料に変わるエネルギー資源について説明する。
適時	■問題集(ネオパルノート) 知識を整理して、問題を解く	知	小	問題集の小テストを適時行い、知識の定

	ことができる	思		着をはかる。
--	--------	---	--	--------

単元計画表

E球技 ネット型:(バドミントン) 入学年次の次の年次以降 全12時間(6回) No.1

単元の目標		知識及び技能		次の運動について、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、技術などの名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、競技会の仕方などを理解するとともに、作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。 イ ネット型では、状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができるようにする。												
		思考力、判断力、表現力等		生涯にわたって運動を豊かに継続するためのチームや自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己やチームの考えたことを他者に伝える力を養う。												
		学びに向かう力、人間性等		球技に主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い高め合おうとすることなどや、健康・安全を確保して、生涯に渡って継続して運動に親しむ態度を養う。												
時限		1, 2		3, 4		5, 6		7, 8		9, 10		11, 12				
授業内容		オリエンテーション		基本技術の習得		基本技術の使い分け		ゲーム								
学習の流れ	0	挨拶、点呼、健康観察、着替え、準備運動・補強運動、 本時の説明、目標の設定														
	10															
	20	○オリエンテーション ○持ち方説明 ○シャトルすくい ○シャトルキャッチ・フォアハンド、オーバーヘッドストローク	○ラリー(フォア、バック、オーバー、フリー)		○ロブ、クリアー、ドロップ、ヘアピン(前後に動かす)		○シングルス(ゲーム)									
	30															
	40		○コート設置の仕方 ○危険予測説明		○サービス(ロング、ショート)練習											
	50															
	60		○ラリー	○ロブ、クリアー、ドロップ、ヘアピン練習		○半面ゲーム(前後に動かす)										
	70															
	80															
	90															
片付け、整列、振り返りシート記入、次回の連絡、挨拶																
評価機会		1, 2		3, 4		5, 6		7, 8		9, 10		11, 12		総合的評価		
	知識	②		①								●				
	技能			③		● ②		①				●				
	思・判・表 態度	①				● ②		②		③		●				
単元の評価規準	知識	①	球技では、各型の各種目の局面ごとに技術や戦術、作戦の名称があり、それぞれの技術、戦術、作戦には、攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的、計画的な練習の方法があることについて理解している。													
		②	球技の型や種目によって必要な体力要素があり、その型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができることについて理解している。													
		③														
	技能	①	サービスでは、ボールに変化をつけて打つことができる。													
		②	ボールを相手側のコートの守備のいない空間に緩急や高低などの変化をつけて打ち返すことができる。													
		③	ボールをコントロールして、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むことができる。													
	思・判・表	①	体力や技能の程度、性別等の違いを超えて、仲間とともに球技を楽しむための調整の仕方を見付けている。													
		②	選択した運動についてチームや自己の動きを分析して、良い点や修正点を指摘している。													
		③	課題解決の過程を踏まえて、チームや自己の新たな課題を発見している。													
		④														
	態度	①	球技の学習に主体的に取り組もうとしている。													
		②	相手を尊重するなどのフェアなプレイを大切にしようとしている。													
		③	互いに練習相手になったり仲間に助言したりして、互いに助け合い教え合おうとしている。													
		④														

令和3年度 体育授業振り返りシート

種目() 月・木 火・金 水 (1・2 / 3・4 / 5・6 / 7・8 / 9・10 / 11・12)限 体育(1 / 2・3 / 4) F() 氏名()

目標

回	日付	スキルテスト	授業内容	欠席	遅刻	見学	忘れ物	安全配慮	自己評価(A・B・C)で記入			できた・わかったこと。ポイント・改善点など
									知識 (理解度)	技能	授業態度 (主体性・積極性)	
1		() 点 回 本 秒		✓	✓	✓	✓ ✓ ✓	✓ ✓ ✓				
2		点 回 本 秒		✓	✓	✓	✓ ✓ ✓	✓ ✓ ✓				
3		点 回 本 秒		✓	✓	✓	✓ ✓ ✓	✓ ✓ ✓				
4		点 回 本 秒		✓	✓	✓	✓ ✓ ✓	✓ ✓ ✓				
5		点 回 本 秒		✓	✓	✓	✓ ✓ ✓	✓ ✓ ✓				
6		点 回 本 秒		✓	✓	✓	✓ ✓ ✓	✓ ✓ ✓				

- ・授業終了後、速やかに提出をすること。
 - ・見学の際は、見学レポートをしっかりと書き、当日中に担当教員へ提出をすること。
- ・授業の開始時間と体育科生徒心得を遵守すること。
 - ・体育の授業は実技がメインになります。毎回スキルテストのつもりで出席をすること。

最終自己評価	感想	担当印
／5点		

2 学期中間テストで実施したテストとルーブリック

Isabel is a busy office worker. She works all the time and feels a lot of stress. She has junk food and more than five cups of coffee every day. She comes home late, so she sleeps for only four hours. She is very tired and sleeps until noon on weekends.

What do you think she should change? Write one thing she should change for her health and a reason to support your opinion. You also write a solution to change it. Your answer should be over 40 words.

<Rubric>

1) One Thing to Change

- ☐ 4 One thing that she should change is written clearly.
☐ 2 One thing that she should change is written but not clear.
☐ 0 Nothing that she should change is written.

2) A Reason

- ☐ 4 A reason is written logically.
☐ 2 A reason is written but not logical.
☐ 0 No reason is written.

3) A Solution

- ☐ 4 A solution is written logically.
☐ 2 A solution is written but not logical.
☐ 0 No solution is written.

生徒の答案

「A 評価」例

I think she should stop having such much coffee. Coffee¹⁰
 has a lot of caffeine. So if she drinks it,²⁰
 she can't sleep well. This is bad for her health.³⁰
 She should continue lessing a cup of coffe every day.⁴⁰
 She can stop this habit only five days.⁵⁰

<判断のポイント>

「思考・判断・表現」の評価

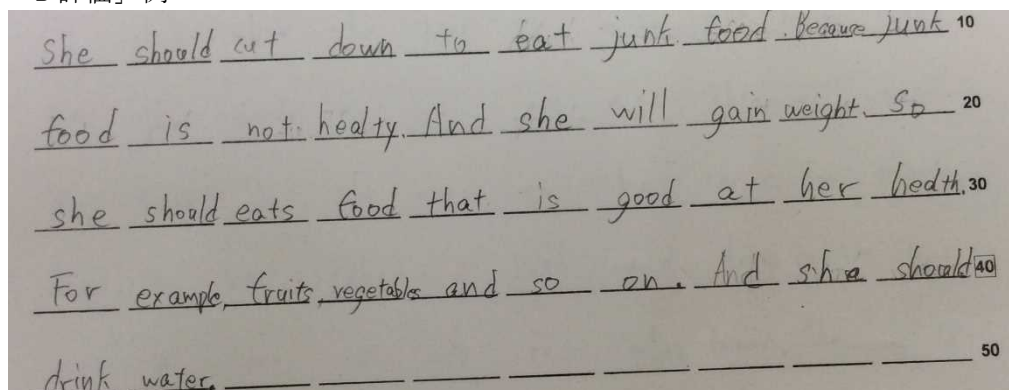
以下の理由から評価結果を「A 評価」とした。

- ・イザベルが変えるべきことが明確に記述されている（ルーブリック 1）
- ・悪い習慣を変えるべき理由が論理的に記述されている（ルーブリック 2）
- ・悪い習慣を変えるための方法が論理的に記述されている（ルーブリック 3）

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「思考・判断・表現」と基本的に一体的に評価するという考え方により、言語活動に取り組む様子から、ここでの評価結果を「A 評価」とした。

「B 評価」例



<判断のポイント>

「思考・判断・表現」の評価

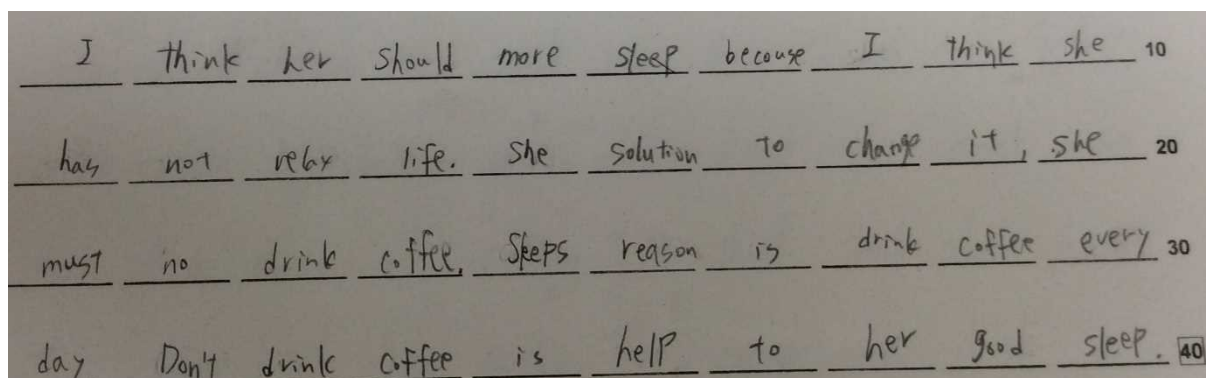
以下の理由から評価結果を「B 評価」とした。

- ・イザベルが変えるべきことが明確に記述されている（ループリック 1）
- ・悪い習慣を変えるべき理由「ジャンクフードは不健康で太る」は説明不足で論理的でないと判断した（ループリック 2）
- ・悪い習慣を変えるための方法は記述されているが、食べ物が羅列されているだけであり、論理的に記述されていないと判断した（ループリック 3）

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「思考・判断・表現」と基本的に一体的に評価するという考え方により、言語活動に取り組む様子から、ここでの評価結果を「B 評価」とした。

「C 評価」例



<判断のポイント>

「思考・判断・表現」の評価

以下の理由から評価結果を「C 評価」とした。

- ・イザベルが変えるべきことが記述されているが、それに続く理由が不明瞭であると判断した（ループリック 1）
- ・悪い習慣を変えるべき理由が記述されていない（ループリック 2）
- ・悪い習慣を変えるための方法として「コーヒーを飲まない」ことが書かれているようであるが、冗長的な記述がみられ、論理的でないと判断した。（ループリック 3）

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「思考・判断・表現」と基本的に一体的に評価するという考え方により「C 評価」と判断できるが、言語活動に取り組む様子から 2 つのループリックを満たそうとする状況が概ね確認できたため、ここでの評価結果を「B 評価」とした。

外国語

科目

英語コミュニケーションⅡ

知

思

態



1 単元名

意見を構成に注意して書いて伝える。

(A topic sentence・Supporting sentences・A concluding sentence)

2 単元の目標 (単元の目標)

社会的な話題 (“Should Japanese workers use all the given vacation days?”) について、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を用いて、意見を構成に注意して書いて伝えることができる。(内容のまとめ「書くこと イ」)

3 単元の評価規準 (単元における本課の目標)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 意見を理由とともに書いて伝えるために必要となる語句や文の構成を理解している。 ”Should Japanese workers use all the given vacation days?” について、意見を理由とともに適切な構成の文章で書いて伝える技能を身に付けている。	読み手に自分の意見をより良く理解してもらえよう、”Should Japanese workers use all the given vacation days?” について、意見を理由とともに適切な構成の文章で書いて伝えている。	読み手に自分の意見をより良く理解してもらえよう、”Should Japanese workers use all the given vacation days?” について、意見を理由とともに適切な構成の文章で書いて伝えようとしている。

4 指導と評価の計画

全6時間 ●及び○は記録に残す評価、●は「5 評価の具体例」として示すもの

時	学習活動	知	思	態
1	- 単元の目標と単元末のパフォーマンステストについて確認する。 - UNIT QUESTION” Is vacation the best way to relax?” に予備知識なくペアで答え合う。(S) - UNIT QUESTION に4人が答えるリスニングに取り組み、他の意見を聞く。(L)			
2・3	” Is a short vacation better than a long one?” についての長文を読み、それぞれの Pros and Cons をつかむ練習をする。(R)			
4・5	” Relaxing at work” についての長文を読み、理由をつかむ練習をする。(R)			
6	- A topic sentence・Supporting sentences・A concluding sentence の構成を学び、文を組み立てる練習をする。 - UNIT QUESTION” Is vacation the best way to relax?” に対して、リスニング・リーディングで得た知識や語彙を使用しながら、意見を理由とともに適切な構成の文章で書く。(W)			
7	(教師は、準備として、第6時に生徒が書いた文章の中から何点かを選び、Rubric に基づいて、良い点や改善点などを確認しておく。) - 教師は生徒の文章で多かった例を提示し、生徒から文章の良い点や改善点等について意見を引き出し、クラス全体でより良い文章に仕上げる。 - ペアで、第7時に各自で書いた文章を読み合い、相互評価する。その後、より良い文章となるよう改善点等について相互に意見を出し合う。 - 意見を踏まえて文章を書き直す。(宿題) (W)			
8	” Should Japanese workers use all the given vacation days?” について意見を理由とともに適切な構成の文章で書く。(15分) (W)		①	①

5 評価の具体例

【思考・判断・表現】及び【主体的に学習に取り組む態度】の評価

ア 評価規準

・【思考・判断・表現】

” Should Japanese workers use all the given vacation days?” について、意見を理由とともに適切な構成の文章で書いて伝えている。

・【主体的に学習に取り組む態度】

” Should Japanese workers use all the given vacation days?” について、意見を理由とともに適切な構成の文章で書いて伝えようとしている。

イ 評価方法

授業にてライティングテストを実施する。(15 分)

ウ 判断の基準

A main idea	reasons	examples	expressions
A <u>main idea</u> is stated.	All of the <u>reasons</u> are connected with the main idea.	All of the <u>examples</u> are suitable.	<u>Expressions</u> are rich and varied A⁺
			<u>Expressions</u> are satisfactory. A
	Not all the <u>reasons</u> are connected with the main idea.	Not all the <u>examples</u> are suitable. A⁻	
		No <u>example</u> is stated. B⁺	
		All of the <u>examples</u> are suitable. B	
		Not all the <u>examples</u> are suitable. B⁻	
	No <u>reason</u> is stated. C	No <u>example</u> is stated. C⁺	
A <u>main idea</u> is not stated. C⁻			

6 「努力を要する」状況（C評価）と判断されるであろう生徒への手立て

＊夏の課題テストで” Does AI benefit human beings?” について、どちらかの意見を選び、その理由を書かせる問題を行った。その際に×となった解答例を示し、なぜそれが理由とならないかを生徒に考えさせることで、論理的な理由とはどういうものを学ぶ一助とした。

＊第6時に「休暇がリラックスの最善策か否か」について生徒が書いた答案を、学年担当で持ち寄り、A・B・C 評価のものを選び共通理解を得る。また、解答例を第7時に生徒に示し、なぜそれがその評価になるのかを考えさせる。評価ポイントがわかった上で相互評価を行い、それを踏まえてリライトを行わせる。

＊テストにおいてC評価のものには、どこがわかっていなかったかを考えさせた上でもう一度リライトを行わせる。

＊この授業やコミュだけにとどまらず、英表においても、意見と理由を考えさせる場面の設定を多くしていき、その場でよいものを紹介したり、どうすればよくなるかを加えたりする。